

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	総合演習Ⅱ		
担当者(Instructors)	丹下 悠史	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)
前期に学んだ「授業研究」についての知識にもとづき、「授業研究」のサイクルの一環である「授業分析」の理論を学び基礎的な方法を習得することを目的とする。この学習を通して、論文等の学術的なテキストを読み解くスキルを獲得する。 前期に引き続き「教師への一歩」として、教員採用試験に向けた課題として、問題集や各種面接対策に取り組む。 併用授業の形態として、(1)受講生を2つのグループに分け、授業回により対面と遠隔を交代しながら受講する方式(2)授業時間内に交代しながら1人ないし若干名が対面で受講し、他の受講者は課題に取り組む方式で実施する。具体的な予定はLMSを通して事前に通知する。なお、対面で受講しない回の出席は、その回の課題の提出をもって出席とする。

■授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	演習形式で授業を実施する。授業内容に応じて、ディスカッション及びグループワークを取り入れる。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス	授業の進め方を確認し、前半のテキスト輪読の形式を理解する。	☐
第2回	授業分析入門（1）授業分析の方法と課題	授業分析の方法と課題について、指定された文献を手がかりに議論する。	☐
第3回	授業分析入門（2）授業分析を通しての子どもの思考の究明	授業分析を通しての子どもの思考の究明について、指定された文献を手がかりに議論する。	☐
第4回	授業分析入門（3）授業分析の諸手法	授業分析の諸手法について、指定された文献を手がかりに議論する。	☐
第5回	授業分析の実際（1）記録の精読	提示された授業記録を精読し、学習の様相を検討する。	☐
第6回	授業分析の実際（2）授業過程の可視化手法	授業記録を手がかりに学習課程を可視化する定式的な手法を学び、実際に適用する。	☐
第7回	個人研究テーマの決定	前半で学んできた研究方法を前提に、自身の探究するテーマを決定する。	☐
第8回	先行研究の収集と分析	選択したテーマに関する先行研究を収集し、検討する。	☐
第9回	ワークショップの企画	健康実践演習の受講生が参加するワークショップのテーマや方法を議論する。	☐
第10回	ワークショップの準備	健康実践演習の受講生が参加するワークショップを準備する。	☐
第11回	ワークショップの運営（1）	健康実践演習の受講生が参加するワークショップを実施・運営する。	☐
第12回	ワークショップの運営（2）	健康実践演習の受講生が参加するワークショップを実施・運営する。	☐
第13回	ワークショップの運営（3）	健康実践演習の受講生が参加するワークショップを実施・運営する。	☐
第14回	レポート執筆	授業分析の結果をレポートにまとめる。	☐
第15回	研究発表会	個人研究レポートを元にゼミ内発表会を行う。	☐

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)
テキスト購読は輪読制で行う。担当者が要約資料を用意するだけでなく、参加者は事前に担当教員が配布するワークシートにしたがい各章の内容に関する問題への解答を準備してくる(2時間程度)。 授業後は議論の内容の記録を各自で作成する(2時間程度)。 個人研究は、授業時間外に資料収集や個別指導を受けることといった自主的な学習活動を課す(週4時間程度)。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)
演習形式により授業を進める中で、発表資料等の学生の成果物および発言にはその都度フィードバックを行う。 課題の研究レポートには個

別に事後指導を行う。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019全学共通DP1	授業分析の基礎的な知識とその意義を説明できる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019全学共通DP2	授業実践を授業分析の方法にもとづき分析し、学習成果や課題を表現できる。
主体性	◆ 2019全学共通DP3	学習成果を他者に共有し、開かれた態度で改善を続けることができる。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			40%	60%
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)				
ゼミ活動への参加・貢献 (10%)、テキスト輪読における担当者としての報告 (30%)、ワークショップの企画・運営 (20%)				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業の際に適宜配布する	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		